

ポイント

1 さまざまな資料の特徴や内容を読み取る

- (1) どのような資料を組み合わせて使っているかを捉える。
- ・表・グラフ・ポスター・新聞・イラスト・写真・地図
 - ・スピーチ原稿・案内文・実用文（説明書・規約・メモなど）
- (2) 資料の特徴と内容、着目すべき点を押さえる。

① 表・グラフの着目点

- ・見出し……調査内容や対象
- ・項目……調査の具体的な結果
- ・数値……項目の数値の大小の比較、時間的推移
- ・グラフの種類に応じた着目点

折れ線グラフ……数量の時間的推移
棒グラフ……数量の比較や順位

円グラフ・帯グラフ……構成比率

- ② スピーチ原稿……話の構成、テーマや話し方の工夫
- ③ ポスター……見出し、タイトル、標語、図など
- ④ 新聞……内容の重要度は 見出し→リード文（要約文）→本文 の順。
- ⑤ 実用文（報告書・説明書・契約書・案内など実用的な文章）……全体を見渡し、目的に沿った情報が書かれているかをつかむ。

例

- ・幅広い年齢の人が読むので、ふりがなを付けている。
- ・強調したいところは太字。

〇〇公園の利用方法

ルールを守り、だれもがきもちよく使えるようにしましょう！

■利用案内■

- ・施設ごとのルールを確認してください。
- ・野球場とテニスコートの使用は申し込みが必要です。

■お願い■

- ・ごみはごみ箱に捨てるか、持ち帰ってください。
- ・火気の使用は禁止です。

- ・項目に分けての説明。
- ・箇条書きで整理している。

2 資料の活用

- (1) 資料とそれをもとにした文章を読み取るときは次の点に注意する。
- (2) 資料の内容を押さえる。
- ・各資料の特徴をふまえて、何についての数値をどのような項目で示しているのかなど、要点を捉える。
 - 文章の内容を押さえる。

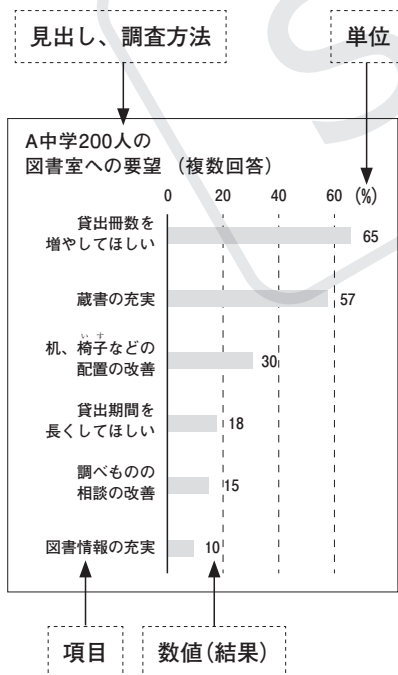
・資料のどの部分に注目した説明か、照らし合わせる。

・資料の情報を正確に把握し、説明の内容が正しいかを確認する。

例 グラフでは、最も数値が高いのは「貸出冊数を増やしてほしい」という要望だとわかる。（↑事実を述べる表現の一部）

・「〜だと思う。」「〜だと考える。」「〜するべきだ。」などの文末表現に注意して、資料を使って主張したいことを押さえる。

例 この回答結果をふまえて、図書の貸出冊数を増やすにはどうしたらよいかを検討するべきだ。



例題

ある中学校の生徒会では、駐輪場の使用について、全校生徒の前で発表する

そこで、最もよい方法は、要望として出ているように、駐輪場を増やすことだと考えました。現在は西側入口横のみですが、東側入口にも駐輪場を設置するよう、学校に提案することを考えています。みなさんの意見を聞かせてください。

(複数回答可)

A	登校時間に混雑している	82%
B	整頓されていない（列の乱れ、場所を守っていない等）	51%
C	下校時間に混雑している	39%
D	駐輪スペースが不足している	25%
E	ごみ等で駐輪場が汚れている	18%
F	その他	5%

- ・登校時間が早いときは混雑していないが、午前8時を過ぎると一気に混雑する。
- ・混み合っていて、自転車や体が隣とぶつかりそうになる。
- ・駐輪場をいくつか増やしてほしい。

- [illegible]

- | | |
|----|--|
| 15 | |
|----|--|

- 才 登校時間帯と下校時間帯を示す表、また、現在の駐輪場と提案する駐輪場の位置を示す地図を用意すると、説明内容がわかりやすくなる。

ある中学校では、学習発表会で「食品ロス」について発表することになり、グループで話し合いを行っています。次の【資料】と【話し合い】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【資料】

〈パンフレット〉

食品ロス

＝捨てられる食品（食品廃棄物）のうち、まだ食べられるのに廃棄される食品のこと。

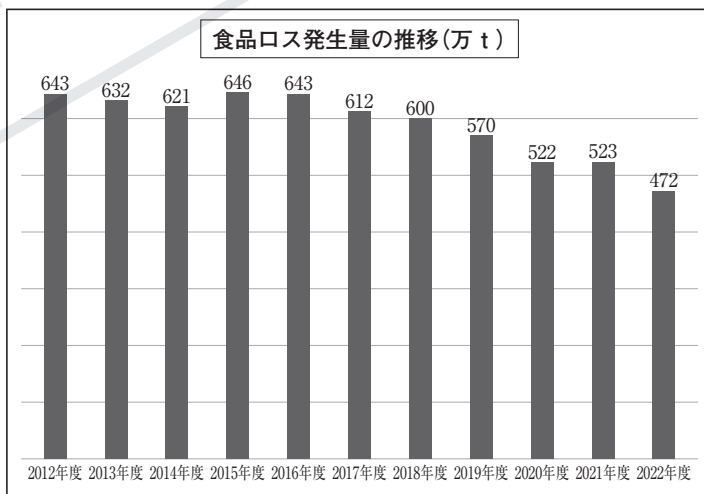
- ・日本で発生している食品ロスは、事業系と家庭系を合わせて計472万トン。
→国民一人あたりに換算すると、毎日お茶碗一杯分の食品が捨てられている。
- ・472万トンの食品ロスのうち、236万トン是一般家庭から発生。
→一般家庭での食品廃棄物707万トンのうち、236万トンが食品ロスにあたる。

〈表〉

あなたは、「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。（複数回答）		
	残さずに食べる	61.6%
【ア】	「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	47.2%
【イ】	冷凍保存を活用する	42.7%
【ウ】	日ごろから冷蔵庫などの食材の種類・量・期限表示を確認する	32.8%
【エ】	料理を作りすぎない	31.1%
【オ】	期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ	29.5%
【カ】	飲食店等で注文しすぎない	29.2%
【キ】	小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれる量を購入する	25.9%
【ク】	残った料理を別の料理に作り替えるなど、工夫して食べる	22.0%

（消費者庁「令和5年度 第2回消費生活意識調査」より作成）

〈グラフ〉



（環境省HP「我が国の食品ロスの発生量の推計値(令和4年度)」より作成）

【話し合い】

（内田）「食品ロス」については、〈パンフレット〉にまとめられています。今日はそれをもとに、「食品ロス」問題の現状について掘り下げて考えていきます。日本での食品ロスは四七二万トンにのぼり、深刻な現状といえるのではないのでしょうか。

（木村）たしかに大きな数値ですが、近年の推移で見るとどうでしょうか。

（木村）は、日本の食品ロス発生量の推移を表しています。この十年で食品ロスの発生量は徐々に抑えられてきているといえそうです。それは、
A とわかるからです。

（内田）企業による保存容器の改良や売れ残りを減らす工夫など、事業系の取り組みもあって「食品ロス」への意識は高まっているようです。一方、家庭ではどのような取り組みが行われているのでしょうか。〈表〉は、おもな取り組みについての調査結果です。みなさんは、どう思いますか。

(草野) はい。「残さずに食べる」という取り組みが最も多く、約六割になっています。これは、「食品ロス」問題について最も基本的な対策だと思います。また、家に食料がどれだけあるか、どのくらいもつかを把握しておくといった取り組みをしている人も約B%います。これは買いすぎを防いだり、食品を計画的に消費したりするための、よい取り組みだと思います。

(木村) 他には、スーパーなどの小売店での廃棄を減らすための取り組みとして、Cという項目も見られますね。このような方法も、食品ロスを減らすための有効な手段だと思います。(後略)

□(1) Aにあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 二〇一九年度と二〇二〇年度を比べると約三割減少しており、二〇二〇年度と二〇二二年度を比べるとさらに約五〇万トン減少している
- イ 二〇一九年度と二〇二〇年度を比べると五〇〇万トン台まで減少しているが、二〇一九年度以降はそのまま五〇〇万トン台を維持している
- ウ 二〇一六年度までは発生量に増減があるが、二〇一六年度以降はほぼ減少傾向にあり、二〇一九年度から二〇二〇年度は減少幅が最も大きい
- エ 二〇一九年度と二〇二〇年度を比べると五〇〇万トン台まで減少し、二〇一九年度と二〇二二年度を比べると約一〇〇万トン減少している

漢字のトレーニング

□①	両手で顔を覆う。	う	□⑥	センサイな味わいの料理。		□⑪	ジュンスイな気持ち。	
□②	厳しい口調で語り出す。		□⑦	強烈な日差しをサける。	ける	□⑫	無色トウメイなガラス。	
□③	高慢な言動を戒める。	める	□⑧	目のサッカクを起こす。		□⑬	寝坊してアワてる。	てる
□④	柵を隔てる。	てる	□⑨	オダやかな風が吹く。	やか	□⑭	森の木をバツサイする。	
□⑤	矛盾した話。		□⑩	既成ガイネンを壊す。		□⑮	不当なカンユウを断る。	

□(2) Bにあてはまる数値を書きなさい。ただし、小数点以下は四捨五入すること。

□(3) Cにあてはまる言葉として最も適切なものを、〈表〉の【ア】〜【ク】の中から選び、記号で答えなさい。

□(4) 【資料】と【話し合い】の内容を正確に読み取ったうえで発言された意見として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 食品ロスの発生量は事業系が家庭系を上回っているものの、家庭での課題も多く、われわれも身近なところから取り組むべきですね。
- イ 冷蔵庫の食材の期限表示をよく確認して、賞味期限が来るまでは食品を捨てずにきちんと使おうとする姿勢が求められていることがわかります。
- ウ 家庭における取り組みの中には、飲食店での食べ残しをしないようにするといった方法も三割近く実践されているようです。
- エ 食品ロスの総量を抑えるためには、小分けの商品を買うようにするなどの、購入時の工夫も新たな試みとして必要になりそうですね。